

講演大会報告 第 100 回 (昭和 55 年・秋季) 講演大会記事

第 100 回講演大会は昭和 55 年 10 月 18 日～19 日九州大学工学部を中心に開催された。今講演大会は本会創立 10 周年を迎えた大正 14 年に、記念行事の一つとして第 1 回の講演大会が開催され、ちょうど 100 回目を迎え、それを記念して 100 回大会記念誌を発行し、配付された他、盛大に記念特別講演会が開催された。

開会式・表彰式

開会式は田畑本会専務理事司会のもと、九州大学記念講堂で 10 月 18 日午前 9 時 40 分より開催され、福田宣雄大会実行委員長 (新日本製鉄(株)八幡製鉄所長) 挨拶で始まり、つづいて武田喜三会長の挨拶が行われた。

(武田会長挨拶)

「本日から 3 日間、ここ近代製鉄所発祥の地、九州地区において諸先輩をはじめ会員諸兄と遠来の賓客をお迎えし、社団法人日本鉄鋼協会第百回講演大会を開催できますことは、私の最も喜びとするところであります。

顧りみますと、当協会創立 10 周年の記念事業としまして、大正 14 年 10 月に第 1 回講演大会を東京で開催して以来今日まで半世紀に亘りくり広げて参りました。

講演大会は申すまでもなく鉄鋼の学術技術の研究発表の場であり、わが国鉄鋼技術の進歩発展に大きく寄与して参りました。

これは歴代会長をはじめ会員各位のたゆまぬご努力の賜物と存じ哀心より敬意を表する次第であります。

さて今第 100 回講演大会の開催に当たりましては、九州大学のご理解により大学の諸施設の使用を快くご許可いただきましたことと、福田実行委員長をはじめ関係各位のご尽力に対しまして、会員を代表して厚くお礼申し上げます。

今 100 回講演大会は、九州地区における 10 回目の講演大会に当たり、前回の昭和 48 年講演大会発表数および討論数に比べ倍増の 751 件を数え 20 会場で行われます。

その発表件数は近年の鉄鋼技術水準の向上と共に、毎回増加の傾向にありましていずれも技術立国を目指し技術交流を推進するわが国にふさわしい優れた研究発表であります。

現在わが国鉄鋼技術は世界最高水準と言われておりますが、我々鉄鋼に関する技術者、研究者はこれにおごることなく、常に従来にも増して資源、エネルギー関連材料の研究開発などを含め、新時代に対処し得る新技術を創出する必要があります。それには、広い基礎理論をもつて、学界と産業界とが相協力して強力な研究開発を推進することが最も有効であると確信いたします。

当協会職員は、今第 100 回講演大会を 1 つの節目として、新たな気持をもつて最新技術報告の流通、技術人材の資質と意欲の向上、ひいては鉄鋼技術研究の発展を目

指し鋭意努力いたす所存でございますので、会員各位におかれましてもわが国鉄鋼技術の進歩発展のため一層のご研讃をお願いいたします。

本日は第 100 回講演大会に際し遠来の関係学協会賓客名の方々からお祝辞を賜ることになっており、その後浅田賞、ヘンダーソン賞および三島賞の表彰式が行われますが、受賞者には心からお祝い申し上げます。さらに浅田賞受賞特別講演会と明日には第 100 回講演大会特別企画といたしまして稲山嘉寛経団連会長、宍戸寿雄日興リサーチセンター理事長、大島恵一東大工学部教授の方々からご講演を賜ることになっております。会員各位におかれましても今後の活動に裨益するところ大であるかと存じます。」

つづいて第 100 回講演大会を記念して関連学協会より次のとおり代表者より祝辞がのべられた。

日本金属学会 高村仁一会長

The Metals Society ケンブリッジ大学

J. F. ノット教授

ドイツ鉄鋼協会 アーヘン工科大学

H. W. グッデナウ教授

ラテンアメリカ鉄鋼協会 本会名誉会員

A. J. ガンボア博士

日本金属学会よりの祝辞を代表し掲載させていただきました。

祝 辞

本日、日本鉄鋼協会の第 100 回講演大会の開催に当たり、日本金属学会を代表して、一言お祝の言葉を申し上げます。

日本鉄鋼協会は創立以来今日まで 65 年に亘り、その多彩かつ多面的な事業を通して、産業界および関係協会との密接な連繋のもとに活発な活動を続け、名実ともに斯界の代表的存在として、極めて顕著な業績を挙げ、隆盛の一途を辿り、ここに第 100 回講演大会を迎えられたことは、まことに御同慶の至りであります。

日本鉄鋼協会と金属学会とは、その創立時期において 20 年余りの隔りがありますが、両学協会が会場・会期を同じくして講演大会を開催致しましたのは、昭和 23 年春、東京において連合講演会の名のもとに行われたのが最初であります。爾来、昭和 30 年までに平均年 1 回、昭和 31 年からは春秋ともに合同開催が慣行となり今日に至っております。実に、五十有八回にもおよぶ講演会をご一緒しているわけで、この間、両学協会の講演数も年々増加し、本大会では鉄鋼協会 750、金属学会 660、合わせて 1400 件を超える未曾有の盛況をみるに至っておりますことは、感慨深いものがあります。

想えば、近代製鉄技術の導入以来 1 世紀余りにして、

世界の追随を許さぬ驚異的躍進を遂げたわが国鉄鋼産業と表裏一体をなして、日本鉄鋼協会がその発展の原動力の一つとして機能してこられたことは、学術と工業との連繫が見事に達成されている稀にみる例として稗讃措くあたわざるところであります。

明 19 日の第 100 回大会記念特別講演会には、金属学会もその時間帯を開けて会員一同拝聴し、両学協会の絆を益々深めさせて頂きたく存じます。

この記念すべき第 100 回講演大会の開催に当たり、日本鉄鋼協会の一層の御発展と御隆昌を祈念して祝辞と致します。

昭和 55 年 10 月 18 日

日本金属学会

会長 高村 仁一

つづいて、西山弥太郎記念資金ならびに浅田長平記念資金の増額贈呈式が行われた。

西山記念資金は昭和 42 年川崎製鉄(株)前社長、故西山弥太郎氏を記念し川崎製鉄(株)より寄贈された 3 千万円を資金とし、また浅田記念資金は昭和 46 年(株)神戸製鋼所前社長、故浅田長平氏を記念して(株)神戸製鋼所より寄贈された 3 千万円を資金とし、記念事業がなされているが、両社よりそれぞれ 1 千万円の増額の申し出があり、西山記念資は川崎製鉄(株)八木副社長より、浅田記念資金は(株)神戸製鋼所小南副社長よりそれぞれ増額金の贈呈が行われた。これに対し武田会長より両社のご篤志を尊重し、更に資金による事業の充実を図りたい、との謝意がのべられた。

つづいて表彰式にうつり、浅田賞、第 12 回ヘンダーソン賞ならびに第 1 回三島賞の授与式が行われた。

三島賞は本会前会長、故三島徳七博士のご遺族の寄贈 300 万円と鉄鋼業を中心とする関連業界の寄付金 600 万円余を記念資金とし、鋳物、熱処理、金属加工の各分野において発明とその企業化またはこれに結び付く研究に業績を挙げられた方に 2 年に 1 回贈呈されるものである。

各賞受賞者は次のとおりである(長彰理由は別添参照)(浅田賞)

東京大学教授 金沢 武君

品川白煉瓦(株)専務取締役 林 武志君

(ヘンダーソン賞)

京都大学工学部金属工学科助手 梅本 実君

住友金属工業(株) 小松原 望君

京都大学工学部金属加工学科教授 田村今男君

(三島賞)

東北大学名誉教授、東海大学教授 金子秀夫君

浅田賞受賞記念講演

開会式、表彰式につづいて同会場において浅田賞受賞記念特別演が下記のとおり行われた。

1) 「鋼構造物の破壊管理」

東京大学工学部船舶工学科教授 金沢 武氏

2) 「耐火物技術における新しい動向」

品川白煉瓦(株)専務取締役 林 武志氏

第 100 回講演大会記念特別講演会

大正 14 年に第 1 回講演大会が開催されて以来、今大会がちょうど 100 回目に当たり、その記念行事の一つとして、記念特別講演会が、九州大学記念講堂に 1700 名の聴講者を迎え次のとおり開催された。

1) 「日本経済の将来」

経団連会長、新日本製鉄(株)会長 稲山嘉寛氏

2) 「日本経済と鉄鋼業の将来」

日興リサーチセンター理事長 宍戸寿雄氏

3) 「周辺の学問と技術の問題」

東京大学工学部教授 大島恵一氏

講演大会

講演大会は製鉄関係 125 題、製鋼関係 199 題、加工関係 86 題、性質関係 315 題、計 725 題の講演が 20 会場に分かれ、活発な討論が行われた。本講演数は過去最高の講演数となつた。

また上記講演のほか次のテーマによる討論会が開催された。

1) 高炉燃料比の理論限界 座長 樋口正昭

2) 溶銑予備精錬

座長 中川龍一、副座長 堀口 浩

3) 厚板圧延における歩留向上技術

座長 日下部 俊

4) 冷延高張力鋼板

座長 大橋 延夫

5) 応力腐食割れ感受性の評価 座長 春山 志郎

懇親会

10 月 18 日午後 6 時より福岡市福岡国際ホールで開催された。坂倉昭新日鉄八幡技術研究室長司会のもと、福田実行委員長、武田鉄鋼協会会長、高村金属学会会長挨拶の後、谷村照九州大学名誉教授の乾杯の音頭で始められた。本会 100 回記念懇親会として 300 名の参加者を迎え、各地から参集した会員間で歓談がくりひろげられた。会は 7 時 40 分まで盛況を呈したが、伊木本会名誉会員の万歳三唱で終了した。

ジュニアパーティ

10 月 19 日 6 時 10 分より第 100 回大会記念講演会にひきつづき工学部食堂で開催された。小野九州大学教授司会のもと、各地より参加した 180 人の若手技術者、研究者を中心になごやかに懇談がなされた。

見学会・婦人見学会

工場見学会は 10 月 20 日日本会属学会と合同で、また婦人見学会は 10 月 19 日それぞれ開催された。

(工場見学会)

・新日本製(株)大分製鉄所

・三菱重工業(株)長崎造船所

(婦人コース)

・福岡市内、唐津観光